

人の心を種として

明日香村教育委員会

教育長 田中祐二

十一月のある早朝、犬を散歩させようと戸外に出ました。凜と冷えた大気の中、早暁の空が澄んだ青みを増しつつあり、西の方に目をやると、朝日を受けて紅く染まった葛城山の上に真っ白な満月が浮かんでいました。東の山の上には、太陽はまだ顔を出しておらず、朝焼けが残っていました。ふと、柿本人麻呂の歌が浮かびました。

東の野にかぎろひの立つ見えて
かへり見すれば月かたぶきぬ

ひむがしのにかぎろひのたつみえて

東野 炎 立所見而

かへりみすればつきかたぶきぬ

反見為者 月西渡

東の野に陽炎の立つのが見えて、

伝承

第十七号

振り返って見ると月は西に傾いてしまっ
た。
巻第一 四
十八 柿本人
麻呂
（岩波書店
「新 日本古
典文学大系 萬葉集一」より）

十二月の満月の頃になると、今年もまた宇陀（阿騎野）の丘にかぎろひを見るために多くの人が集まることでしょう。

歌の「月西渡」から考えると、人麻呂が見た月は満月だったのか、それとも右下が欠け始めた月だったのか、はたまた下弦の月が中天から西の方へ傾き始めた頃だったのか。この萬葉集一の脚注によると、「あずま野のけぶりの立てる所見てかへり見すれば月かたぶきぬ」との訓み下しもあったそうです。漢字で書かれた万葉集の歌を訓み下すのは難しく、これが絶対に正しいとは言えないの
でしょう。それ故に、専門家だけでなくも、あれこれと自由に想像しながら自分なりの解釈を考える面白さが残されていると思いま
す。

この本の序文の一節に、『鎌倉

時代の学僧仙覚の万葉集註釈には、「先此集ヲ万葉集ト名ツケタルハ何意ゾヤ、コレハヨロズノコトノハノ義也」ト自問自答し、古今集・仮名序ノ「ヤマトウタハ、人ノ心ヲタネトシテ、ヨロヅノコトノハトゾナレリケル」という有名な文章を引いた。心の表現である歌を、植物の種から生じた葉のようなものだと譬えることを一証として、「万葉集」という書名を、沢山の木の葉の如き歌の集と理解したのである。』と記されています。

喜怒哀楽に加えて、寂しき、侘びしき、愛しき、恋しき、切なき、憎らしき妬ましきなどなど、人の心に生じる様々な感情が、種となって、詩歌や舞踊などの文化・芸能が芽生え、枝葉を茂らせ広がっていく。その種が次の世代へと受け継がれ、新たな心が加わって更に進展していく。文化の伝承は心の伝承であると言えるのではないのでしょうか。

多くの方々が、明日香村の文化・芸能の伝承に関わってくださっています。仕事や家事で忙しい中で時間をつくり、研鑽を積み、少しでも多くの人へ、少しでも次の世代へと伝える努力をしてくださっていることに、改めて敬意を表

し、心から感謝申し上げます。
人の心を種として芽生えた文化・芸能が、心から心へ、手から手へと、長きに亘って伝えられ受け継がれるとともに広がっていきますように、皆様のご尽力を切に願うところです。これからもうか宜しくお願い申し上げます。



平成 28 年 11 月 26 日 「式年造替奉納演奏」 於：春日大社

八雲琴

八雲琴の音

古いにしえから今いまここに

石田易久子

八雲琴の音は、遠い昔から伝わってきました。須佐之男命が、わが子である大国主命に授けた天の詔琴が、八雲琴の起源だと、古事記に記されています。この神聖な楽器を今、私達が受け継いで、又、次の世代へと伝えていく、その責任と喜びを感じています。

八雲琴のこともっと知りたいとの思いで、今年、浜松へ研修に出かけました。浜松楽器博物館には、世界中の珍しい楽器が展示されています。玄関を入ると、正面の大画面に写し出されたあでやかな桃色の八雲衣が、目に入りました。やがて、聴き慣れた曲が流れ、クローズアップされた八雲琴。そして、演奏しているのは何と、明日香村伝承芸能保存会の面々でした。館長さんの、何よりの計らいを嬉しく思いながら中に進んでいくと、様々な種類の琴が展示されていました。



平成 28 年 9 月 24 日 於： 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地

琴の表面に、真珠や珊瑚がうめ込まれている豪華な琴。黒く渋く光っている琴。飛鳥寺の震琴先生が弾かれていた八雲琴や、脇田先生所蔵の、時の流れを感じさせる八雲琴などが展示されていました。館長さんから一つ一つ丁寧に説明していただきました。演奏は、殆ど暗誦と口伝によって伝えられてきたそうですが、琴や、琴の音だけでなく、たった二本の糸に託された創り手の思いも、共に受け継がれてきているのだと聞き、創り手にも思いを馳せました。

研修から帰って、二絃の糸をど

んな強さでどんな弾き方をすれば、最も澄んだきれいな音を奏でることができののかと、模索しながら一音一音大切に、今までよりいっそう心して練習しています。

演奏を披露する機会がありましたので、紙面の許す限り、いくつか紹介します。

まず、定例公演。年に六回、万葉文化館エントランスホールで演奏しています。今年、新しく「月光の曲」を教えていただき、九月の定例公演で披露しました。

『月の世界は住まわねど あの清逸の姿にはほればれ中に住むこちして』

何とすてきな歌でしょう。現実から離れて、月の世界を思い、琴の音に酔いしれる幸せのひとつでした。十月には、野外ステージで演奏しました。辺りの木々がしっとり濡れ、澄んだ空の下、秋風が心地よく感じられました。この悠久の自然の中で八雲琴を弾く乙女達。なかなかすてきな絵になりそうです。

その他、キトラ古墳周辺地区開園記念行事。石舞台での古都

飛鳥文化祭。明日香村制六十年芸能大会。犬養万葉記念館での飛鳥アートウィレッジ等、様々な行事でのオーブニングでも演奏しました。

八雲琴の音は繊細です。感性を磨き、真心を込めて弾こうと思えます。これまでの日常生活の中では味わったことのない程、ゆったりとした優雅な時が流れ、その中に浸れる幸せを実感しつつ…。

子供達とともに

赤松美香

いつか娘と一緒に八雲琴を奏でたいと夢見たあの日から、早四年半が過ぎました。毎週熱心に教えて下さる先生方のご指導のおかげで、小学三年生になった娘と共に、年始の互礼会や村の文化祭芸能大会に出演させて頂く機会にも恵まれ、八雲琴を奏でながら、ささやかな喜びを感じるこの頃です。

現在、明日香の響保存会の在籍者は、大人十八名・高校生七名・中学生十二名・小学生三名の計四十名です。特に中学校の

「明日香学」の授業で興味を持った生徒達が毎週土曜日のお稽古にも参加し、様々なイベントに積極的に出演するなど、二年間の授業を終え卒業してからも継続して頑張る子供達が増えていきます。

また、イベント本番には、子供達はお稽古を始めて七年目になる経験者から初心者までが一緒に演奏するので、合同練習では、経験者は自分の難しかった事を思い出しながら親切丁寧に教え合います。年々イベント出演が増えるにつれ、子供達の結束力も強くなってきました。本番前のリハーサルでは、大人の指導者が口を出さずとも、自主的に「もっと大きな声で歌ってね!」「速くなるから、ゆっくり弾こうね!」と上級生が下級生に優しく声を掛け合っています。明日香村が目指す縦割り教育が自然と行われ、明日香っ子らしい異年齢の関わりをみて、とても微笑ましい気持ちになります。

出演は子供達ばかりではなく、九月の『キトラ古墳開園記念公演』や十月の『古都飛鳥文化祭』万葉文化館の定例公演や『万葉

のひろば』などでは子供と大人が共演しました。

脇田先生や浦谷先生の指導を受け、子供をサポートする大人九名も集まり練習に励んでいます。八雲琴の伝統芸能を受け継ぐだけでなく、子供達と地域の大人との交流を深めるコミュニケーションの場にもなっています。八雲琴を通して、多様な人間関係を築き、礼儀作法や人格形成など、皆が成長できる場でありたいと考えます。

最後に、私たち明日香の響保存会にとって嬉しいニュースがありました。今年の四月より明日香小学校で八雲琴がクラブ活動に登録され、新たに八名の児童が入部しました。

また、学生の頃八雲琴を長年続けていた経験者が大人になり結婚で一度は辞めたものの、数年後子育てから手が離れたのをきっかけに、今度は指導者として十月より加わってくれました。

一人でも多くの明日香の子供達が八雲琴に触れ、初心者も経験者も共に仲間となり成長し育てていく事が、今後期待され楽しみになりません。

南無天踊り

南無天踊り

入部を振り返って

部長 古川良則

退職する迄はと入部をお断りしていましたが、辞めて間もなくのお誘いがあり、平成二十五年に入部させていただきました。

約半年後に、前部長さんから次期部長にと、依頼がありましたが、諸先輩方々の中で、こんな重責な役をする器ではなく、まだ早いと、お断りしましたが、後日自宅にこられ、説得に負けて、言葉は悪いですが「どっばに嵌(はま)り」何も判らないまま、お引き受けしました。篠笛の担当で、部長になる前の県立高取国際高校「伝承芸能鑑賞会」がイベントとしての初出演でした。緊張して唇が乾き、音が出なく、指孔で指をバタバタさせて終わり、汗びっしりでした。南無天踊りの公演では一人二役、三役の仕事があります。

二部の竜の舞、四部の法螺貝ほらがい、この法螺貝が難題で、初めて吹い

た時は鳴りましたが、中々それらしい音が出ません。少しは良くなった頃に、万葉文化館での定例公演で、法螺貝(ほらがい)デビューしました。やるからには何とかしなければと、携帯電話で法螺貝の音を聞いたり、吉野山金峯山寺での節分祭山伏行列をビデオに撮った



平成28年10月16日 「古都飛鳥文化祭」 於：あすか風舞台



平成28年11月26日「南無天踊り定例公演」
於：奈良県立万葉文化館

りし、参考にしました。さあ、これから何役目が廻ってくるか…。

伝承芸能・南無天踊りを後世に伝えて行くためにも、若い世代の入部が課題です。

平成二十七年十一月に明日香小学校三年生の女子生徒さんに入部していただき、昨年十月には篠笛のベテランの方にも入部していただきました。これからも多くの皆様の御協力の下、後継者発掘活動をして行きます。

最後になりましたが、定例公演以外の大きなイベント等、部全員の方々に助けていただきながら、現在に至っております。

万葉朗唱

平成二十八年九月二十四日、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区開園の記念行事に出演いたしました。当日は会場の芝生が雨上がりの水を含み舞台シューズを濡らしたのも、地下に眠る、キトラ古墳の冷たさとメッセージが伝わる思いがしました。

去る平成十六年、富山県高岡城公園の万葉大会に参加した時は、伝承芸能保存会元会長の垣内正義氏も健在で、同行されました。池の上に浮かんだ舞台で、風雨を全身に浴びての舞台出演となりましたが、忘れ難い思い出です。

昨年に続き十月十六日、古都飛鳥文化祭(あすか風舞台)に出演しました。

恒例の明日香村文化祭の芸能大会(十月二十三日)、及び定例公演も事終了し、左記コンサートに出演いたしました。

「記・紀万葉」朗唱フェスティバル
平成二十八年十二月四日(日)
会場 明日香村中央公民館
企画演出 岡本三千代館長



平成28年9月24日於：国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区



平成28年10月16日「古都飛鳥文化祭」於：あすか風舞台

飛鳥蹴鞠

主催 南都明日香ふれあいセンター
「犬養万葉記念館」
犬養万葉記念館運営委員会
「つらつら椿」

協賛 明日香村
明日香村教育委員会
協力 明日香村文化協会
明日香村伝承芸能保存会

次号掲載予定

* * *

平成二十九年一月の事業予定

古事記朗唱大会

平成二十九年一月二十一日(土)
午後二時〜午後四時四十分
会場 奈良春日野国際フォーラム

覽 (I.R.A.KA)

新年互礼会

平成二十九年一月二十九日(日)
午前九時〜
会場 明日香村中央公民館ホール

「伝承あすか」第十七号

発行 二十九年一月
明日香村伝承芸能保存会
会長 岡崎義男
題字 「伝承あすか」勝川喜昭書
編集 明日香村伝承芸能保存会